
一般演題 | 手術 (POP)

LSC RSC

座長:石川 哲也、森山 真吾

2023年8月5日(土) 17:10 ~ 18:05 一ツ橋ホール (日本教育会館 3F)

17:45 ~ 17:50

[1A51P]RASCにおける PSS (Patient Side Surgeon) の役割

○山本 恭代¹、布川 朋也¹、津田 恵²、佐々木 雄太郎¹、高橋 正幸¹、金山 博臣³、西山 美月¹、小林 早紀¹、大豆本 圭¹、富田 諒太郎¹、上野 恵輝¹、楠原 義人¹、山口 邦久¹ (1. 徳島大学 医学部 泌尿器科、2. 徳島市民病院 泌尿器科、3. 川島病院 泌尿器科)

キーワード：ロボット支援下仙骨脛固定術、Patient Side Surgeon、骨盤臓器脱

【目的】2021年1月より骨盤臓器脱に対するロボット支援下仙骨脛固定術(RASC)を導入した。当科は、1,000例以上のロボット手術の経験があり、問題なく導入した。導入後、女性泌尿器科診療に関わったことがない PSS (Patient Side Surgeon) が手術を円滑に行うための役割について検討した。【対象・方法】対象は、POP-Q Stage III以上の骨盤臓器脱患者に対して施行した24回の RASCとした。double mesh法を用い、前壁剥離・前壁メッシュ固定後に、子宮を有する症例では子宮上部切断を行い、後壁剥離・後壁メッシュ固定、岬角へのメッシュ固定、腹膜縫合の順に行っている。【結果】患者の平均年齢は、71.5 (±3.8) 歳、平均手術時間は、237.6 (±40.0) 分、平均コンソール時間は174.0 (±38.2) 分、平均出血量は21.7 (±23.8) g、4例が子宮摘出術後であった。LSC経験者が PSSの場合とそうでない場合で比較すると、手術時間は222.7 vs 264.0分、 $p<0.05$ 、コンソール時間は166.4 vs 197.3、 $p=0.067$ であった。術中膀胱損傷を1例、Stage IIIの再発を2例で認め、うち1例はポートサイトヘルニアも出現した。術中合併症症例、再発症例は、いずれも LSC非経験者が PSSであった。【結語】PSSの LSC経験の有無が手術時間や合併症、POP再発に影響した。手術成績の改善を図るため、各ステップの手順書を作成し、PSSが LSCの経験がない場合には、経験者が第二助手を務めるようにしている。